

先端臨床薬学概論

(Introduction to Advanced Clinical Pharmacy)

担当教員

教授	西口 工司
教授	矢野 義孝
講師	辻本 雅之
講師	松村 千佳子

科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等
薬学専門教育（講義）	6年次 前期	講義	1単位	選択

【概要】

薬剤師は、社会から有効かつ安全で安心な薬物療法の提供を期待されている。この期待に応えるためには、患者個々の遺伝子情報や病態に応じた医薬品の選択、投与量の調節など、医薬品適正使用の推進に必要な確かなエビデンスの創生が重要となる。本講義では、医薬品適正使用を推進するために臨床の最先端で行われている先進的な研究内容や実践的な取り組みについて概説する。また、医薬品適正使用の推進のために必須となる臨床研究のプロセスやテーマ設定の方法について具体的事例を交えて解説する。

この授業は全て対面授業で構成する。

【授業の一般目標】

医薬品適正使用の推進に必要なエビデンスを創生するために、医薬品適正使用に関する先進的かつ実践的な現状の取り組みを理解するとともに、臨床研究を行うための基本を習得する。。

[関連する卒業認定・学位授与方針] DP1・DP2・DP5

【準備学習(予習・復習)】

5年次までの関連科目の教科書や配布したプリントに目を通すなど、予習した上で講義に臨むこと。受講後は、必ず講義当日のうちに講義内容を見直し、練習問題を使用するなどして復習すること。予習と復習を合わせて1週あたり150分程度の学修が必要である。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	医薬品適正使用の実践（1）	西口	医薬品適正使用の現状と薬剤師の役割を理解する。
2	医薬品適正使用の実践（2）	辻本	薬物動態・薬物相互作用の知識を元に、腎機能低下患者における医薬品適正使用を理解する。
3	医薬品適正使用の実践（3）	辻本	添付文書・インタビューフォームや学術論文の情報を元に、腎機能低下患者や薬物相互作用に対する医薬品の適正使用法を説明できる。
4	医薬品適正使用の実践（4）	西口	ファーマコゲノミクスの基礎並びに遺伝情報から代表的な医薬品の作用発現変動について予測する手法を理解する。
5	医薬品適正使用の実践（5）	西口	遺伝情報から代表的な医薬品の作用発現変動について予測する手法を理解する。
6	医薬品適正使用の実践（6）	西口	遺伝情報から適切な処方提案するための手法を理解する。
7	臨床研究を行うための基礎（1）	矢野	薬剤師として臨床研究を行うためのプロセスについて具体的事例を通じて理解する。
8	臨床研究を行うための基礎（2）	松村	薬剤師として臨床研究を行うためのテーマ設定について具体的事例を通じて理解する。

【実務経験】

西口工司

業種：病院

学習項目No.	その経験を生かして、どのような教育を行なうのか。
1、4、5、6	病院薬剤師として従事して得た臨床経験（調剤や臨床研究）を生かし、個々の患者に最適な薬物治療を提供するための薬剤師の役割やエビデンス創出について、具体的な事例などをもとに知識と技能の修得を目指す。

矢野義孝

業種：製薬企業

学習項目No.	その経験を生かして、どのような教育を行なうのか。
7	16年間製薬企業の臨床薬理部門に在籍し、新薬開発に係る臨床試験デザインの立案や薬物動態 / 薬効データ等の統計解析、申請資料の作成などを実施してきた。これらの経験を生かし、受講者が今後薬剤師として病院・薬局・企業等で臨床研究を目指すための手法について具体的に伝える。

松村千佳子

業種：病院

学習項目No.	その経験を生かして、どのような教育を行なうのか。
8	約20年間の病院薬剤師、現在は臨床研究員として週に1回病院に従事している。これらの経験をともに薬剤

(書名)

(著者・編者)

(発行所)

教科書 使用しない(プリントを配布します)

参考書 4年次の調剤学ならびにテーラメイド薬物治療学の教科書および配布資料

【成績評価方法・基準】

定期試験(100%)にて評価する。

【評価のフィードバック】

合格発表日以降、manaba上に公開する。